

経験者の声

孫育て いいこと 困ったこと

うれしいこと、大変なこと、いろいろあるのが「孫育て」。
祖父母世代、子ども世代の双方から、印象に残ったエピソードや
心がけていることなどをお聞きしました。

普段気難しい父が、
とろけるような表情で
娘をあやしているのを見ると、
親孝行したなと思う。

(会社員 男性)



サラリーマン時代、忙しすぎて
子育てをできなかったことが悔やまれる。
時間にゆとりができた今、二度目の
子育てを思いっきり楽しんでいる。

(退職者 男性)



同居している義母が伝統や
しきたりを大事にする人なので
自然と子どもが仏壇に
手を合わせる子に育った。

(会社員 女性)



孫の喜ぶ顔が見たくて
つい何でも買ってやりたくなる。
嫁の顔を思いだして自制しているが、
孫には好かれたいし、悩ましい問題。

(退職者 男性)



看護師をしている娘に代わって
PTAや授業参観にも参加している。
大変だけど、孫と深く
かかわれるうれしさもある。

(専業主婦 女性)



義父が一度口に入れたものを
食べさせたり、義母が添加物たっぷり
のお菓子をあげたり。
何も言えないのがつらい。

(会社員 女性)



孫と一緒に出かけした時に
孫が急に走り出して
追いつくことができなかった。
何事もなかったが、ひやりとした。

(専業主婦 女性)



母子家庭で、
いつもおじいちゃんが保育園に
迎えに行ってくれていた。
保育園の先生に「お宅のお子さんは
情緒が安定していますね」と褒められて
祖父母のおかげと思った。

(フルタイム 女性)



孫と一緒に散歩していて
孫を褒められると
うれしくて幸せな気持ちになる。

(退職者 男性)



双方の親と離れて暮らしていて、
妻はインターネットの情報を
参考にすることが多かったが、
情報が多すぎて迷ってしまうことも。
近くに誰かいればと思った。

(会社員 男性)



コラム

周囲も自分も 幸せにする孫育て

NPO法人
お助けネット代表

中谷通恵さん



白老町在住。自身の育児経験から、
2003年に交流や託児を行う子育て支援
団体を仲間とともに立ち上げて活動。
現在、自身も孫育て中。

町から委託を受けて、「白老町子
育てふれあいセンター」を運営し
ています。子育ての支援活動を通
じて接する若いお母さんたちに共
通の悩みは、育児に自信が持てな
いということ。周囲に相談相手が
いない場合が多く、「これでいいの
だらうか」と不安や迷いを募らせ
てしまうようです。

祖父母の一番の役割は悩んでい
る若いママの話を聞いてあげて、

「大丈夫だよ」と励まし、「頑張っ
ているね」と認めてあげること
でしょう。また、注意してほしいのは、
心配のあまり、きつい言葉を使っ
てしまうこと。普段なら気になら
ないことも、慣れない育児と寝不足
でぼろぼろになっている新米ママ
には相当堪えるようです。

近くに住んでいれば、時々預かっ
たり、面倒を見てあげるのもいいで
しょう。ただし、祖父母自身がかっ
けて無理をしないこと。離れてい
ても、子ども夫婦が住む地域の子育
て支援情報を調べてあげるなど、
できることはたくさんあります。
そして、大切なのはママを孤立させ
ないこと。子育ての主役であるパパ
やママが笑顔でいられることが、
孫への一番のサポートです。

孫はいるだけで「ありがと」と
言いたくなる存在。自分の子ども
に対するのは違う「ゆるい無償
の愛」を降り注いであげましょう。